

自己評価報告書

平成 23年 3月 25日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20720108

研究課題名 (和文) バリ語山地方言の構造的特徴と社会言語学的実態の調査

研究課題名 (英文) Linguistics and Sociolinguistics research on Mountain Balinese Dialect

研究代表者

原 真由子 (HARA MAYUKO)

大阪大学・世界言語研究センター・准教授

研究者番号：20389563

研究分野：社会言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：言語学、社会言語学、方言研究、バリ語、インドネシア語

1. 研究計画の概要

本研究は、バリ語方言研究にとって極めて本質的であるにも関わらず、四半世紀もの間十分な調査がなされていなかったバリ語山地方言を対象に、言語学的・社会言語学的調査研究を実施する。主な研究トピックは以下の3つである。

(1) 現在のバリ語山地方言の方言学的に重要な構造的特徴を、主に語彙調査を通じて、もう1つの方言であるバリ語平地方言と対照しながら、明らかにする。

(2) 山地方言地域の社会言語学的実態の諸側面 (使用言語、言語態度など) を、面談調査に基づき、解明し、記述する。

(3) 言語構造と社会構造の相互作用に関わる言語現象であるコードスイッチングに注目し、バリ語平地方言とインドネシア語のコードスイッチングのメカニズムに関してすでに私自身が提案している仮説の有効性を、バリ語山地方言話者による会話資料を用いて、この方言の特徴をふまえた視点から検証する。

2. 研究の進捗状況

上記 (1) に関して、バリ州ブレレン県プダワ村における現地調査で収集したバリ語山地方言の語彙資料 (約 1000 項目) をバリ語平地方言と対比しながら分析・整備し、山地方言の音韻構造と語彙特徴を明らかにした (雑誌論文①)。それに基づき、さらに新たな語彙も収集しながら、異なるインフォーマントにも追試験を行っている。また、バリ語山地方言の音韻構造をより明らかにする上で、聴覚音声学のアプローチも用いた。国語インドネシア語を話すことができるバリ語平地方言話者とバリ語山地方言話者の二

言語話者を対象とした聴覚音声学実験を行い、2つのバリ語方言音韻構造の違いと聴覚の相互関係を明らかにした (雑誌論文②、学会発表①)。

(2) については、同じくプダワ村を対象に、村の人口統計に基づいた被験者選出と調査票作成をおこない、バリ語山地方言話者に面談調査を実施し、これまで報告されたことのない山地方言地域の社会言語学的実態を明らかにするためのデータを取得することができた。その分析結果は投稿準備中である。

(3) のトピックについては、面談調査の結果に基づき、インドネシア語へのコードスイッチングが起きる可能性が高いバリ語山地方言話者およびその可能性が極めて低いバリ語山地方言話者を選び出し、彼らがおこなう会話を録音により収集し、そのテープ起こしを話者とともに開始した。また、散発的に偶然得られた会話録音についてもテープ起こしをおこなっている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

理由：調査地において、本研究への協力が十分得られる人間関係を構築できている。その上で、1で述べた3つの研究トピック全てに着手できており、それぞれについてデータ収集と分析がある程度進んでいる。そして、来年度も妨げなく、それを続行できることが見込まれる。

4. 今後の研究の推進方策

プダワ村での現地調査をあと1回実施し、そこで得られる調査結果をこれまでの成果と合わせ、さらに考察をすすめる。そして、口頭発表および論文発表をおこなう。

まず、1で述べた研究トピック(1)に関しては、バリ語山地方言語彙調査の追試験と語彙収集を引き続き行いながら、さらに山地方言話者の社会的属性による語彙知識の違いについても調査する。

次に、(2)のバリ語山地方言地域の社会言語学的実態を明らかにする報告・論文を発表し、社会言語学やインドネシア言語研究の専門家からコメントを受け、次回の現地調査に反映させる。

(3)については、引き続き、バリ語山地方言とインドネシア語のコードスイッチングが現れる会話およびバリ語山地方言のみの会話の2種類の会話を収集し、書き起こしをおこない、私がすでに提案しているバリ語平地方言会話におけるコードスイッチングのメカニズムに関する仮説を検証する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 原真由子、「バリ語山地方言の語彙資料」、アジア・アフリカの言語と言語学、4巻、259-296、2010、査読有り
- ② 原真由子、「聴覚音声学的実験に基づくバリ語平地方言/a/の解釈」、大阪大学世界言語研究センター論集、3巻、247-260、2010、査読有り

[学会発表] (計1件)

- ① 原真由子、「聴覚音声学的実験に基づくバリ語平地方言/a/の解釈」、日本音声学会、九州大学、2010年9月27日